

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



天鎮県李二口村の万里の長城。畑を耕すおじいさんの姿まで、何百年も変わっていないような錯覚におちいる

Contents

- 会員総会のご案内 P 2
- 大同の異常気象 早すぎた春がもたらしたもの P 2
- みみずく基金をよろしくお願ひします P 3
- 春のワーキングツアー報告 P 4

2007.5

115

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第13回会員総会のご案内

春のワーキングツアーは無事終了。この会報がみなさんのお手元にとどくころには、東北電力総連のツアーが帰国します。

アンズのお花見を、と例年より遅く実施した GEN のツアー。残念ながら、満開のアンズを見ることはできませんでした(詳しくは下の記事および4ページ)。気候の異変は、自然とともに生きている大同の農民を直撃します。温暖化を防ぐために、私たちがすべきことは何か、できることから行動にうつしていきましょう。

さて、今年の会員総会記念講演は、大同で菌根菌利用の育苗を指導していただいた小川眞さんをお願いしました。最近『白砂青松再生の会』代表として、日本や韓国の海岸林再生に取り組んでおられます。フィールド経験も豊かな、

菌根菌第一人者の小川眞さん、盛りだくさんのお話を聞けそうです。

【緑の地球ネットワーク

第13回会員総会】

●日時：6月16日(土)13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時

『菌根と炭で地球温暖化に

立ち向かおう』

小川眞さん(大阪工業大学客員教授)

○会員総会：15時20分～16時40分

●記念講演参加費：500円(GEN会員無料)

●場所：大阪市立総合生涯学習センター第2研修室(大阪駅前第2ビル6階各線「梅田」駅、JR「大阪」駅/東西線「北新地」駅)

* GEN 会員には後日資料を送ります。

★懇親会のお誘い

◇場所：豆助(大阪マルビル3F)

◇時間：17時～18時30分

◇会費：5,000円(予定)

◇申込み：6月14日までに GEN 事務所まで。

GEN 会員でなくても参加できます。お気軽にどうぞ。

秋の訪日団にむけて

ご協力をお願い

10月20日過ぎから10日間ぐらいの日程で、大同から訪日団を招きます。カウンターパートが総工会になってから初めての訪日団です。総工会の関係者が多くなると思いますが、森林の大切さや環境に配慮した開発の意義などを実感してもらえるような研修場所をご存じでしたらご提案ください。大阪周辺および東京周辺で探しています。

GEN 会員や協力者との交流の機会ももうけたいと思います。ご協力をお願いいたします。

大同の異常気象

早すぎた春がもたらしたもの

2007年春のワーキングツアーは満開のアンズの花を楽しむはずだったのに、とんだことになってしまいました。

ことしもまた暖冬だったのです。1月、2月と大同からの連絡は「暖かくて冬らしくありません」というもの。3月初めになって「大雪です。広霊では平均30cm、市内でも20cmは積もりました」と連絡がありました。これだけの雪は

高見 邦雄 (GEN 事務局長)
57年ぶりだそうです。

大同の農村には、雪が降ると早魃になるという言い伝えがあります。私がそういうと、返ってきた答えは「元宵節に雪が降ると豊作になります。あの雪は春節から数えて最初の満月で、まさに元宵節です」とのこと。それはよかったです。

その後はまた暖かく、土壌の凍結も

例年より早く融け、大同の北部でも3月下旬から植栽作業がはじまりました。アンズの花がツアーの到着以前に咲き終わってしまわないか、心配だったので。ところが4月はまた気温が下がり、渾源县呉城郷のアンズの開花は4月末まで延びてしまいました。

とんだことというのは、花見ができなかったというだけではありません。雪

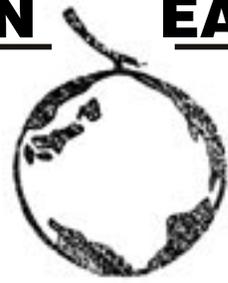
をもたらした3月初めの寒波によって、アンズの花と葉の芽が枯れてしまったのです。しかも被害の範囲が広く、伝統的なアンズ産地、河北省蔚県などでも全滅したといえます。花芽が被害を受けることはこれまでもありましたが、葉芽まで枯れるのは今回が初めて。乾いて黒くなっており、指でさわるとポロポロ落ちてしまいます。花の被害はその年だけのことですが、葉となると樹勢が弱って翌年以降にも影響するかもしれません。

呉城村の幹部によると「雪は50cm以上も積もり、気温は零下十数度になり、風も強かった」ということです。アンズは寒さに強く、それくらいの寒さは普通は問題にしません、それまでが暖かかったために芽が動き出し、耐寒性が落ちていたのでしょう。

冬が寒く長い大同のこと。温暖化で暖かくなるのはいいことのようにですが、このような問題も起こります。環境に恵まれた日本では地球温暖化は未来形で語られるだけですが、もともと限界的な環境の大同の農村ではまさに現在進行形です。



遠田顧問からアンズ凍害の説明を聞く GEN のツアー参加者



みみずく基金を よろしく願います！

先号で「みみずく基金」への協力を
お願いしたところ、たくさんの方から
寄付をいただきました。ありがとうございます。
ひきつづき、ひろくみみず
く基金へのご参加を呼びかけます。

みみずく基金は、大同事務所直轄の
プロジェクトの経済的自立をサポート
するためのものです。諸物価の上昇、
とくに人件費の高騰で、環境林センター
をはじめとする緑化協力拠点の諸経費
は増える一方です。白登苗圃やかけは
しの森から収益が得られるのは先の話
になります。それまでは外部からの支
援が必要です。みなさんのご協力をお
願います。

なお、カササギの森も、植えつけ終
了後は、みみずく基金に組み込むこと
になっています。

【みみずく基金】

1口1万円で寄付を募っています。A.
環境林センター、B. 霊丘自然植物園、
C. 白登苗圃、D. かけはしの森の4つか
らお選びください。指定のない場合は、
事務局で決めさせていただきます。ま

た、20%は事務管理費になります。

☆1万円で、例えば……。

A. 環境林センター

・バラなどの花木を 240 株購入できます。
・新疆ポプラの挿し木用の枝を 520 本購
入できます。

B. 霊丘自然植物園

・クコやエンジュなどを 60 株購入でき
ます。

C. 白登苗圃

・マツ苗 13,200 株を育苗できます。
・トショウ苗 870 株を購入できます。

D. かけはしの森

・果樹苗 116 株を購入できます。

* * * * *

シンボルキャラクターが決定しまし
た！ カササギの森のキャラクターの
作者でもある祖谷公子さんが、かわい
いみみずくをデザインしてくれました
(8 ページ)。このみみずくがはいつた協
力者証を準備中です。もうすぐお届け
できますので、申し訳ありませんが少
しお待ちください。

GEN 自然と親しむ会

比良山麓・馬ヶ瀬で間伐作業

今年も馬ヶ瀬で汗を流す季節がやっ
てきました。琵琶湖も比良山も指呼の
間、新緑とおいしい空気を味わいな
がら、「NPO 自然と緑」のみなさんの指導
で間伐、ヒノキの皮むきなどの作業を
楽しみましょう。

●日時：5月27日(日)10時～15時
ごろ

●場所：滋賀県比良山麓の馬ヶ瀬国有
林

●集合：午前10時 JR 湖西線「北小松」
駅前

●参加費：700円(保険料を含む)

●もちもの：弁当、飲み物、軍手、雨具、
タオル。作業のできる服装、靴でご
参加ください。

●定員：20名(先着順)

●申込み：5月23日までに GEN 事務
所まで

★協力：NPO 自然と緑

2006 夏の黄土高原ワーキングツアーのご案内

今夏、黄土高原ワーキングツアーは
旅行社の企画旅行という方法に初挑戦
します。内容は今までどおり、GEN
の緑化協力地大同で、村の造林プロジェ
クトや GEN の緑化協力拠点を訪ね、植
樹作業をしたり現地の人たちとの交流
を深めるものです。GEN スタッフが関
空から同行しますし、北京からは同心
社(旧東方之星)手配の通訳が同行、
大同では緑色地球ネットワーク大同事務所が諸
手配をおこなうのも以前どおり。

ではなぜ旅行社が入るのかというと、
主に危機管理の問題です。中国の道路
交通事情は安全とはいえません。SARS
や鳥インフルエンザなど感染症の不安
もぬぐえません。万一の場合を考え、
経験豊かな旅行社の協力をえることに
しました。もちろん、旅行社が入れば

事故が防げるわけではありませんから、
従来どおり安全には十分に留意します。

来年夏には北京オリンピックが開催
されます。北京のホテルは改装ラッシュ
で、すでに値上げもはじまっています。
来夏のツアーをどうするかは未定です
が、実施は困難かもしれません。夏の
黄土高原を見たいと思っている方、ぜ
ひ今夏の参加をご検討のうえ、はやめ
にお問い合わせください。

●日程：8月1日(水)～8月8日(水)

●費用：174,000円(国際航空運賃、中
国国内での交通費/食費/宿泊費を
含む。GEN 年会費〈一般=12,000円、
学生=3,000円〉燃油特別付加運賃、
空港使用料、個人行動時の費用、旅
券取得費用、個人でかける旅行保険
料は含まない)※中国国際航空利用

※関西空港発着 ※成田便利用希
望の方は、6月18日までにお知らせ
ください。航空運賃の差額5万円が
別途必要です。 ※旅行社の添乗員
は同行しません。

●訪問先：中国山西省大同市(北京経由)

●定員：35名

●締切：6月25日(定員に達し次第締
め切ります)

●呼びかけ・内容に関する問合せ：緑
の地球ネットワーク

●申込先：(株)マイチケット(エアー
ワールド(株)代理業)担当：向井
TEL.06-4869-3444 FAX.06-4869-5777

●旅行企画・実施：エアーワールド(株)
国土交通大臣登録旅行業第961号
日本旅行業協会会員

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

発展する中国の光と影～みえないものをみる

春のワーキングツアー日誌から

今春は初めてツアーを派遣する団体が2つ。春が早く、植樹作業も早くはじまって、ツアーの受け入れと植樹の同時進行に大同事務所は大忙しでしたが、なんとか無事終了しました。GENのワーキングツアー（4/17～24、27名）のようすはいつものようにツアー日誌から抜粋して、(株)東芝中国黄土高原ワーキングツアー（4/5～11、15名）、ローソン緑の募金中国黄土高原ボランティアワーキングツアー（4/8～13、16名）、イオン労働組合黄土高原ワーキングツアー（4/13～18、21名）はそれぞれ参加者からお送りいただいた感想を紹介します。

【4月18日（水）】

天鎮県招待所で朝食を済ませたあと、古長城を見学に行った。『万里の長城』といってもいろいろあるらしく、今日見たのは黄土を強化して上手につきあげたもの。石とかレンガとかそういったもので作られた万里の長城しかイメージになかったため、早速自分の勉強不足と中国の広大さを感じた。(中略)

農家で食事をいただいたが、本当に精一杯ごちそうをふるまってくれ、逆の立場だったら自分はここまでできるだろうか？と考えた。

また、戦中のことなどもあったし、これほどまで、村をあげて日本人を歓迎してくれることにとまどいを覚えた。ここまでの良好な関係を築くのに、どれだけの背景があったらだろうか。(中略)

明日は植林活動だ。今自分がやるべきことをちゃんとやろうと思った。(藤田千栄)

【4月19日（木）】

ワーキングツアーも3日目を迎えました。朝、ホームステイ先の家で目を覚ましました。うすい布団だったので冷えるかと思ってたけど、オンドルが思ったよりも暖かくてぐっすり寝れました。朝食は朝から炒め物でちょっとキツかったけど、植樹をするのでしっかり食べました。

午前中は待ちに待った植樹。「これをしに、中国に来たんだ！」とはりきっ

てやりました。作業は比較的簡単だったけど楽しかったです。

植樹が終わると5年ほど前に植えられて、今は大きくなっているナシ・アンズを見学。少し前に自分が植えたアンズがちゃんと成長してほしいなあって感じました。(飯山慶)

【4月20日（金）】

今日は午前も午後も植林の作業があった。午前中は白登苗圃、午後にはカササギの森での作業でした。自分はこのツアーに参加する以前に植林関連のツアーや作業に参加したことはなかったし、環境や植物に関しても無知同様で、高見先生や遠田先生をはじめ経験者の方々に教わるのがとても多かった。だけど特別そのことを恥ずかしいとも、自分ダメだとも思ってません。むしろ大事なことは、今回学んだこと、経験したことを自分の会社の同僚、友人、家族に伝えて、一つのものとして共有していくことだと思う。(青木真)

【4月21日（土）】

あんずの村、呉城郷で見たものは、広大なあんず畑。残念ながら花はまだほとんど咲いていなかったが、ただただその広さに圧倒。村に着くと小学生たちを含め村人から“熱烈歓迎”。あんずのおかげで大変裕福になった村であったが、その明るさとは対照的に、今年のあんずからの収入はほぼ期待できないとのこと。原因は、暖冬の終わりに急におそってきた寒波。遠田先生によると、葉になるはずの芽が落ちてしまい、その影響は数年続くかもしれない。このような現象は初めてのこと。ポロポロ落ちていく葉芽が黒い涙に見えた。今日、最後は懸空寺。崖に造られた寺の建物はまさに絶景。しかし、そこでも私たちが目にするのができなかつたのは、水の無い隣のダム。



確かに、私たちは、今一番輝いている中国の「光」の一面しか見ることができませんでしたが、その裏には確実に「影」の一面もあることを今回のツアーで知ることができました。(山下真)

【4月22日（日）】

さて、今日は午前中雲崗石窟の見学。1500年前は、まわりはどんな風だったのだろうか？一つ一つに色彩がほどこされ、土色の大地の中に建っている……ちょっと離れたところからは天窓から仏像の永遠を願うほほえみがのぞかれる……もっと近寄って入ると、無数の小さな仏像や天人たちがこぞって洞窟の中で歌声を上げているようなエネルギーを感じる。

昼食は、緑色環境林センターで、おいしいたっぷりのごちそう。午後は男性はしだれえんじゅの苗を掘り出したあとの穴の埋めもどし、女性は温室内でサルビア苗の芯つみ。ずっと黄土色の中において、温室内のフサフサした緑が気持ち良い。(中略)

私はまたここに来たいと思う。三嶺村の人たち、呉城村の人たち、東沙河村の人たちが、そのときどのように暮らしているか見たいと思う。(桃井美鈴)



黄土高原植林ツアーに参加して

三崎 均 ((株) 東芝)

緑の地球ネットワーク (GEN) が運営している山西省での植林事業に参加する東芝のボランタリーツアーの一員として参加しました。過去中国渡航8回の経験がありますがいつも成長著しい北京などの都会ばかりへの訪中でしたので、農村地域への訪問には大げさに言えば未知の領域への期待がありました。

実際に参加してみると、事前に予想していた厳しさと差はありませんでしたが、それでも実地に見聞した事柄にはなおかつ衝撃を受けざるをえませんでした。季節的に雨季の前でしょうが北京から大同への道すがら山地にも農地にも1本の木も見ないというのはやはりショックでした。見渡すかぎりはげ山と砂地と見まごう農地と川の流れの跡ばかりではいかにかこの地が過酷な地域であることかと現実をいきなり突きつけられた思いでした。

滞在中は4日間の植林作業をおこないましたが、普段地元の方々が継続しておられる作業を少しばかりお手伝いしたというのが正直なところでした。大部分の参加者が普段はデスクワークばかりで、生まれてからこのかた土いじりなどしたことがないようなメンバーに対しGENの高見さんがかなり手加減してくださったのではないかと思います。それでも3日目の霊丘自然植物園での作業は砂地の急斜面での作業でかたて加えてナツメの鋭い棘の攻撃を避けながら動くということで最も印象的でした。

上北泉村では3人1組に分かれて農家を訪問しましたが、みな暖かく迎えていただいたことに感謝します。GEN



上北泉村の果樹園入口にて

の指導による果樹園の収入で比較的裕福な農家だとはわかっていても水が貴重なことは実感でき、日本とは比べものにならないくらい水への渴望も切実なものだろうと思いました。

山西省を中心に石炭と鉄鉱石の鉱山が多数とお聞きし、事実道路からも多くの小さな鉱山と貯炭場を見ましたが、これらの施設では洗浄後の水をまったく処理せずに河川に放出していると聞いて遠い将来の深刻な環境汚染を思うと暗い気持ちにならざるを得ません。

最後に高見さん、遠田顧問、通訳兼ガイドとして同行してくれた崔さんや現地施設のかたがたに深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

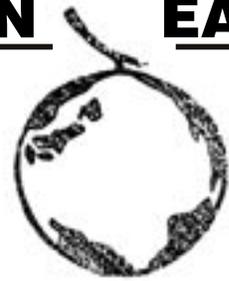
黄土高原ワーキングツアーに参加して

伊能美佐子 ((株) ローソン)

中国は隣国であり、経済面では輸入相手国1位でありながら、あまり興味がなかったせいか、今回のワーキングツアーは驚きの連続で、日本に戻った翌朝は、あまりのギャップにタイムスリップをしていたような感じでした。マスコミ等で報じられる中国都市部と地方の格差、そして砂漠化は知っていましたが、実態を見るとやはりショックでした。しかし、人々とのふれあいや人間の強さや粘っこさ(特に高見さん)を知り、楽しく、学ぶことも多く、充実した日々でした。

緑の地球ネットワーク(以下、GEN)が拠点としている大同市内は、北京を縮小した地方都市という感じでしたが、わずか20分ほど車を走らせると、塩害により耕作されなくなった畑や水の流れの細くなった川があり、環境破壊が現在進行形で進んでいるのを目の当たりにしました。

我々が訪れた呉城村や苑西庄村も砂漠化した厳しい環境の農村部には変わりはないですが、GENの活動により、果樹園があり子どもたちの明るい笑顔があり、豊かさを感じました。子どもたちとは、会話を超え、延々と「アッチ向いてホイ」をして、忘れてしまった遊び心も湧いてきました。また、苑西庄村の井戸からジャブジャブと溢れ



村のおじさんに手伝ってもらって水を運ぶ

出る水をみて愛おしさを感じたり、日本では味わえない気持ちにもなり、貴重な体験をしました。今回かぎりで行われることなく、今後も継続して活動に参加していこうと思います。

生きる力を考える旅

菊池 則雄 (イオン労組)

私達21名が北京空港におりたったのは4月13日、今年は異例の暖冬だったにもかかわらず、東京も北京も少し肌寒い日だった。

北京から大同へと向かう。私も含めて初めての参加者でも市街地の開発スピードの速さをうかがい知ることができる。そこかしこから聞こえる工事の音、携帯電話の着メロ、車のクラクション……(これが中国?)。

村に入り、村人たちと植樹、そして手作り昼食のもてなしを受ける。参加者のなかには感激で涙する者もいた。それほどまでに、作業の時、みんなで囲んだ昼食のテーブルも、暖かい気持ちと笑顔があふれていた。昼食後の昼休み、陽だまりに腰を下ろして談笑する村人たち……かつて日本にも、こんなゆったりとした時間があつた。

かささぎの森、環境林センター等、これまでの「緑の地球ネットワーク」の業績にふれるたび、そのご苦労に頭が下がる。この成果があつて、この国の人たちが私たちを暖かく迎えてくれるのだと思え、高見氏はじめ数多くの方々に感謝、感謝である。

今、中国はすさまじい勢いで経済が



植樹を終えて、記念碑を囲み笑顔で写真撮影

拡大しつつけている。故に、そのなかで環境を考えるのは大きな戸惑いを感じるのも事実である。北京へのエネルギー供給源で大同の基幹産業である石炭は、あと10年で掘りつくされるといふ。街は好景気に沸き立つ一方、地下

水の水位は下がりつづけ水不足は年々深刻になっているともいう。

北京の方に聞いてみた。「今の北京と10年前の北京どちらが好きですか?」

「いろんなものが変わった。一番変わったのは人の心です」。

大同の農民に尋ねた。「オリンピックは楽しみですか?」

「あれは、北京のオリンピックだ…」。

経済と環境、物質と精神の価値、様々な戸惑いは中国の方々も同じである。

大同市最後の日、市の総工会の方々がパーティを開いてくれた。参加した全員に今回のツアーの感想を話してもらった。全員が感謝と感動を口にし、涙する者も多くあった。経済発展に驚

き、GENの活動に感心し、共に過ごした両国のみんなとの共感に感動した。そんな6日間であった。

環境のみ、経済だけの話では片付けられない「人が生きる」ということ。その矛盾は中国だけでなく、日本にも、私たち1人ひとりの中にも存在する。様々な矛盾の中で、対立軸のどこに足場を置きバランスをとるべきか?は参加した1人ひとりが考えるだろう。ただ、それを考える時、最終日に流した感動の涙の向こうにはやさしい「人間」がいた。それは忘れないでおきたい。

高見氏ははじめ今回お世話になった多くの方に感謝、シエシエ=ありがとうございます。

黄土高原史話 <35>

「墓主は代郡西部都尉?」

文学好きの通弊か否かは知らず、若い頃からどうにも制度史が苦手。歴史研究者としてのそんな欠陥を今更ながら実感したのは、本シリーズ<1>、特に前回は執筆中。具体的にいうと、前漢時代、平城(今の大同)は雁門郡東部都尉の、高柳県は代郡西部都尉の治所(政庁の所在地)だった、というあたり。そう書きながら、実は「東部都尉」「西部都尉」について、何の知識もあらばこそ。

そこで今回、その筋の専門家に教えを乞うた。

<34>を同封し、聞いた相手は秦漢時代の郡県制・分封制の権威たる紙屋正和福岡大学教授。15年ほど前、天神界限で大酒を飲んだ縁もある。

以下、懇切なご教示を利用させていただこう。

そもそも、漢代には「郡・国の二千石」と称される地方官あり。主として民政をつかさどる太守と軍事にかかわる都尉のことで、機能上は両者による分割統治。しかし、都尉に軍事のすべてを委ねると、武力をバックに政治に介入する恐れあり。そこで政府は、都尉には兵士の訓練のみ、出兵権は太守に認め、出動したさいの指揮権も太守が握り、都尉は補佐に当るだけ。一郡には太守が1人、都尉が1人で、多く

谷口 義介 (摂南大学教授)

の場合郡内の別々の県に役所を有す。以上は、漢の領域の中央部を占める内郡のケース。

これに対し、そのまわりの辺郡では、事情が若干異なります。漢の武帝は盛んに外征、西域・朝鮮・南方へと領土を拡大し、たくさん辺郡を設置する。しかして辺郡は外敵の侵攻にさらされて、臨機応変の措置が必要。また面積も広いので、一郡に一都尉では足りません。そこで広大な辺郡には、太守1人のほか複数の都尉を、それも太守のいる県(郡治)から離れた県に置きました。その県が郡内の東・西・南・北・中央のどこにあるかで、〇〇都尉と称したわけ。そして都尉には、軍事上の指揮権のほか、民政の権限も認めます。また太守の方も、兵士の訓練と管理も担当。つまり辺郡では事実上、太守と都尉に機能面の相違はなく、地域面からの分割統治がなされていた、と。

西の朔方郡や東の楽浪郡、西南の蜀郡、南東の会稽郡などと同じく、山西省北部も辺郡です。斑固(32

- ~ 92) の『漢書』地理志に、
- 定襄郡：武進県に西部都尉、武舉県に中部都尉、武要県に東部都尉(成楽県は太守の郡治)
- 雁門郡：沃陽県に西部都尉、平城県に東部都尉(善無県は太守の郡治)
- 代郡：高柳県に西部都尉、馬城県に東部都尉、且如県に中部都尉(桑乾県は太守の郡治)

の、それぞれ役所があった、と書いてある。

前回紹介した古城堡漢墓群は、漢代では高柳県のエリア。

その第12号墳は、直径26メートル、高さ4.2メートルのマウンド。地表下9メートルの墓壇内に木槨。棺の中から男子の遺骸。「耿嬰」と刻んだ銅印をもつ。95センチの長剣も副葬。おそらく耿氏は、代郡の西部都尉をつとめた武官ではなかったか。



植物屋のこぼれ話 (続編) その13

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

強をしてみませんか？ 天敵飼育で会社社長になった人がイタリー、フランスにはたくさんいるそうですよ。

●天敵利用の発想

農薬の葉漬けから脱却しようという世界的動きのなかで天敵利用が注目されている。われわれ人間の病気に使われる抗生物質が、微生物 vs. 微生物であったことはあまりにも有名であるが、いまでは農業用あらゆる生物が利用されようとしている。バクテリア・カビ・ウイルス・クモ・センチュウ・昆虫・原生動物などなどである。

やり方は少し違うが、沖縄で放射線をあてて不妊にした雄のハエを大量に放してウリミバエを絶滅させたのもバイオロジカル・コントロールのひとつである。農薬を使わない方法としては、赤・白・黄・青色などの粘着テープで捕殺する方法や電気掃除機で吸い取るという奇抜な方法も南米では流行している。

最近増えてきたハダニ類のなかでダニを食べるカブリダニが沖縄にたくさんいることがわかって注目されている。この他、アブラムシ vs. テントウムシ、オンシツコナジラミ vs. オンシツツヤコバチ、ミナミキイロアザミウマ vs. ヒメハナカメムシ、カタツムリ vs. マイマイカブリなどが話題の豊富な例である。カビ・ウイルス・細菌・糸状菌でヨトウムシやアオムシ・カイガラムシなどを退治しようという研究が進んでいる。

害虫ではないが高価なミツバチの替わりにハナバチの一種が販売されるようになった。これは冬のトマトの受粉用である。冬のハウストマトはホルモン剤で結実促進されていたが、受粉されると種子ができて形もよくなり甘みが増すのである。去年から冬のトマトが美味しくなったことに気づいていますか？

●生物 vs. 生物

沖縄に陸生のホタルがいる。内地のホタルはカワニナやタニシの類に卵を生むが、これはカタツムリに卵を生んで繁殖する。いま、沖縄本島北部でカタツムリが大発生して野菜を食べて商品価値がなくなってしまう。数年前からこの陸生のホタルがいなくなったこ

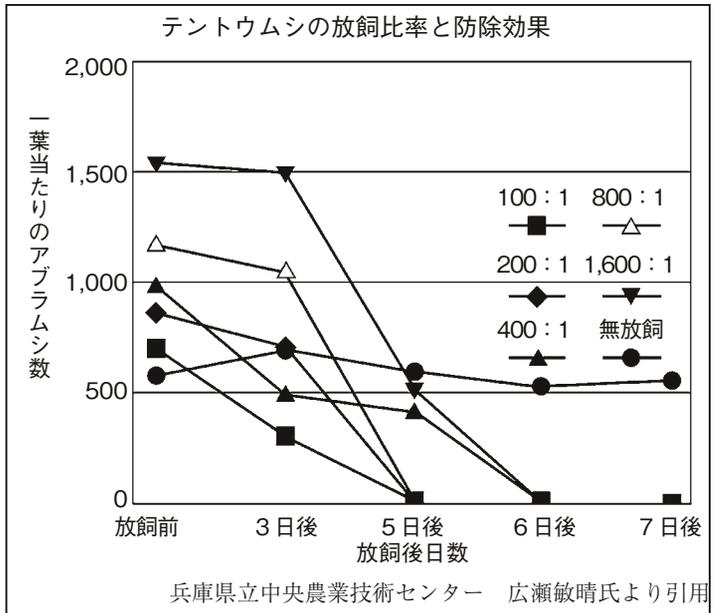
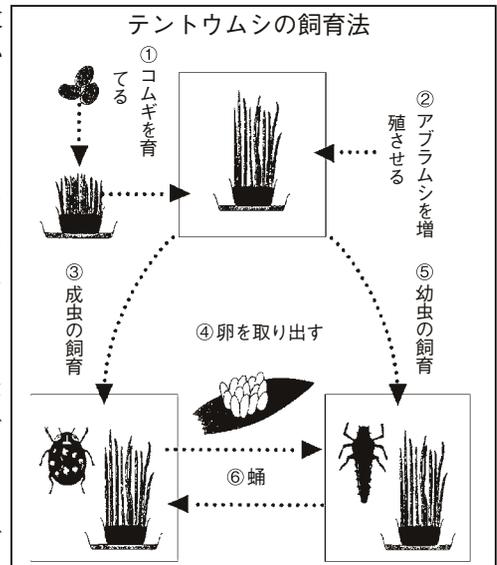
とが原因らしい。カタツムリの天敵マイマイカブリが農薬で全滅したからといわれている。マイマイカブリを増やして放す必要がある。

●テントウムシを増やせ

フランスの園芸店でテントウムシが販売されているという。1袋買って帰ってアブラムシのついたバラに放してやると何もしないのにアブラムシとテントウムシが消滅した、という話を聞いた。エサのなくなったテントウムシまでいなくなったのである。

日本ではまだ天敵の販売は少なく2~3種にすぎないが、欧米では2桁も販売しているという。日本は生態系が複雑だから、うっかり放すと生態系が壊れるおそれがあるからである。しかし、天敵の飼育は将来のベンチャー・ビジネスになり得るものと考えられる。

虫の好きな方、昆虫の勉



寄付・助成

ありがとうございます

- 積水ハウスマッチングギフトの会と積水ハウス株式会社から、あわせて130万円のご寄付をいただきました。
- 日本経団連自然保護基金から、480万円の助成が決定しました。



お知らせ

3月、NHK ラジオ深夜便「こころの時代」で高見事務局長のインタビューが放送されて大きな反響をいただきました。好評ということで、5月30日、31日、午前4時05分から再放送されることが決まりました。また、ステラMOOK「ラジオ深夜便 こころの時代」第4号に内容が掲載されるそうです。

情報ひろば
いろいろかたじ

＜第33回中国文化フォーラム＞
日中国交正常化35周年記念
「遣隋使1400年以來の
日中文化交流」

「小野妹子から井真成までの

中日文化交流史」

●日時：6月9日（土）14時～16時

●講師：王維坤さん（西北大学教授）

「漢字文化圏の形成」

●日時：7月14日（土）14時～16時

●講師：笠井敏光さん（大東市立生涯
学習センター館長）

●場所：上海新天地 6F（大阪市中央区
日本橋 2-7-5 TEL.06-6646-1390）

●会費：一般 1,500円 学生 500円

*場所・会費は共通

●主催：NPO 大阪府日本中国友好協
会（Tel. 06-4395-1111 Fax. 06-4395
-1113 E-mail : jcf@mail. infomart.
or.jp http://www.kaigisho.com/jcf/）

万博公園・
自然環境セミナー

7回連続で体系的に学べるセミナーで、

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

各回それぞれのテーマについて午前中は室内講義、午後は野外実習として学習していきます。すべて土曜日。

1) 6月30日 万博公園の自然再生とモニタリング

2) 7月28日 藻類

3) 9月1日 土壌

4) 9月15日 昆虫

5) 9月29日 緑地環境

6) 10月27日 植生

7) 11月17日 GPSとパソコン利用

●時間：10時～15時ごろ

●場所：万博記念公園

●定員：20名、高校生以上（先着順）

●参加料：7回で10,000円（入園料別）
高校生・大学生に限り1回1,000円（入園料別）での参加も可能

●申込み：氏名、性別、生年月日、住所、電話番号に、「万博公園・自然環境セミナー」と添書きして、ハガキ、FAX、メール、電話でお申し込みください。

●主催・問合せ・申込み：（社）大阪自然環境保全協会（〒530-0015 大阪市北区中崎西 2-6-3 パステル 1-201 Tel.

06-6374-3376 Fax. 06-6374-0608

E-mail : office@nature.or.jp http://
www.nature.or.jp)

編集後記

フクロウは、西洋では知恵の象徴、日本でも福につうじるとか、「不苦労」の語呂合わせで人気者です。ところが中国のフクロウ-梟はどうも分が悪い。漢和辞典で梟をひいたら、「母を食う鳥」なんて書いてありました。同じ仲間なのに、みみずく（猫頭鷹）は耳に似た羽があるだけでどこか愛嬌があるのか、得をしているようです。みみずく基金のキャラクター、初公開です。（東川）

